

## 令和元年度 医学部卒業生臨床研修先へのアンケート調査結果について

### 1. 背景

岩手医科大学では、本学における教育の質保証を目的として、平成 30 年に「学習成果の評価検証方針及び指標」を定め、これによって 3 つのポリシーに基づいた教育が実施されているかを検証することとしている。

令和元年 9 月 10 日に開催された教学運営会議にて、教育成果の可視化、活用および情報の公開について一層の充実を図ることが承認され、指標の一つである卒業時・卒業後アンケート結果を実施・公開することとなった。ここでは、その内卒業生が臨床研修医・臨床研修歯科医・薬剤師として従事している医療機関等に対して行ったアンケート結果について報告する。

### 2. 概要

調査対象 平成 29 年度、平成 30 年度卒業生が臨床研修医として従事している医療機関等  
(調査対象数：106)

調査期間 令和元年 9 月 13 日 (金) ～9 月 30 日 (月)

実施方法 インターネットを利用した Web アンケート

質問内容 ①学部ごとの学位授与方針 (DP) に対する本学卒業生の実態について  
②本学の教育に求める内容について

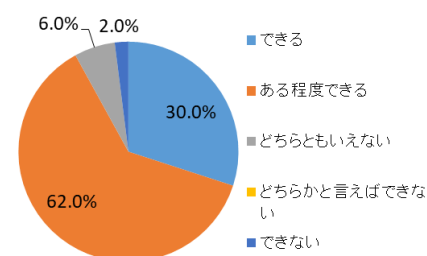
### 3. 結果

回収率 43.1% (50/106)

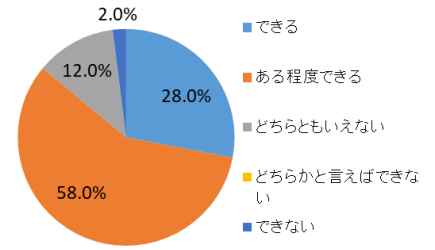
協力機関 公立富岡総合病院、仙台市立病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、福岡大学病院、北上済生会病院、石巻赤十字病院、(静岡県) 市立島田市民病院、福山市民病院、尾張健友会千秋病院、慶應義塾大学病院、倉敷中央病院、岩手県立久慈病院、杏林大学付属病院、獨協医科大学病院、大崎市民病院、京都府立医科大学附属病院、J A 長野厚生連、佐久総合病院佐久医療センター、大森赤十字病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、伊勢赤十字病院、東京女子医科大学東医療センター、岩手県立釜石病院、長岡中央総合病院、岩手県立磐井病院、さいたま市立病院、岩手県立大船渡病院、札幌厚生病院、仙台厚生病院、日本医科大学付属病院、市立函館病院、岩手県立宮古病院、大阪医科大学附属病院、山形県立中央病院、医療法人立川メディカルセンター立川総合病院、秋田大学医学部附属病院、岩手県立中部病院、労働者健康安全機構東北労災病院、日本医科大学付属病院 (匿名希望機関を除く)

Q 1. 岩手医科大学医学部では、以下の 8 つの資質を身につけた者に学位を授与する方針を掲げております。貴医療機関で研修した本学卒業生がそれぞれの資質をどの程度身につけていたか評価をお知らせください。

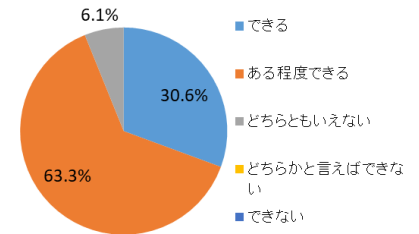
① 医療倫理；全人的人間性をもち、社会正義と患者の福祉を最優先とする「誠の人間」として、常に自己研鑽に努め、臨床医として最新かつ最善の医療を地域にもたらし、研究医として人類の福祉に貢献する姿勢を示すことができること。



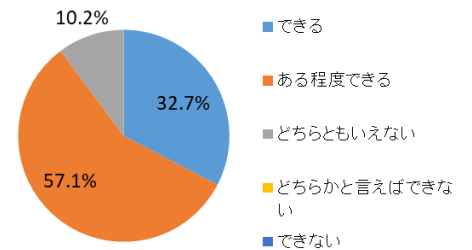
② プロフェッショナリズム；豊かな教養と幅広い知識、優れた技術、「誠の人間たる」態度を身につける必要があることを理解し、日々研鑽を続ける責務と後進育成の使命を自覚すること。



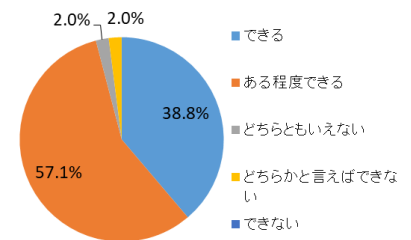
③ 医療安全；安全な医療を提供し続けるために、感染対策、医療安全管理に対する知恵を身につけ、自己の身体的および精神的健康にも気を配りつつ、医療の質の向上に努めることができること。



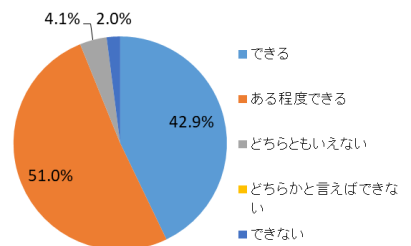
④ 医学的知識；初期臨床研修医あるいは研究医としての業務を行うために必要な基礎生命科学、臨床医学、行動科学、社会医学および医学英語の、知識と科学的思考方法を有しており、疾患の予防、診断と治療、あるいは研究に活用できること。



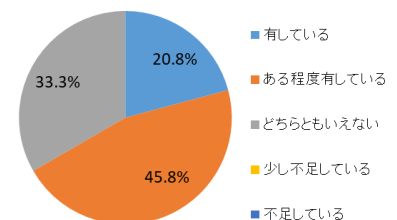
⑤ 診療技術・患者ケア；的確な医療情報を収集し、それをもとに適確な診断を下し、プライマリケアを実践して記録する、という基本的な課程を「誠の医師」として患者に真摯に向き合っておこなえること。



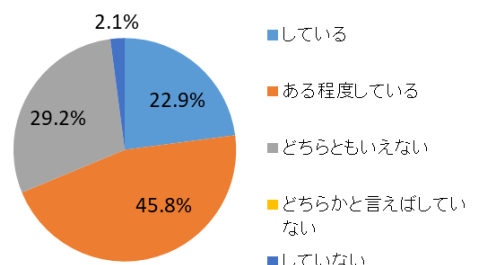
⑥ コミュニケーションとチーム医療；「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族および医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築することができること。



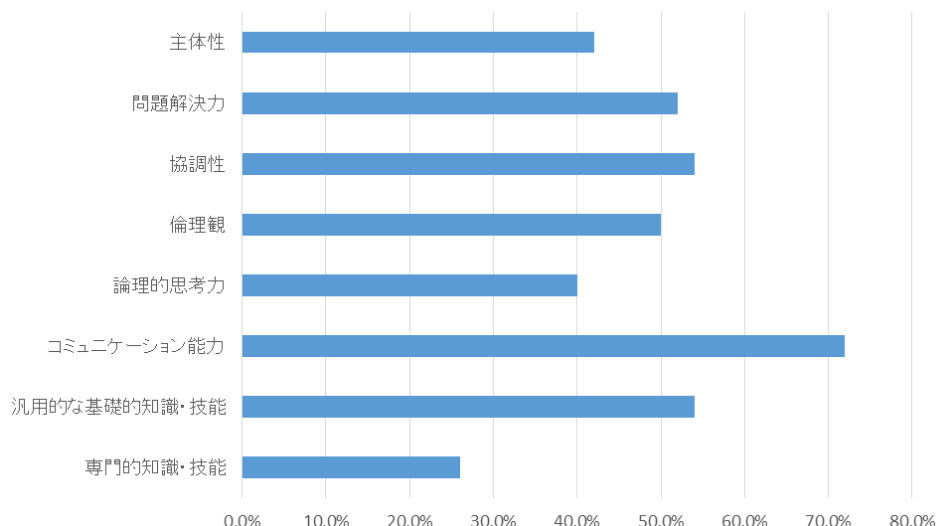
⑦ 医療の社会性；「厚生済民」の建学の精神に基づき、社会保障制度および法律に関する知識を修得し、国内外の保健医療に貢献する意志を有すること。



⑧ 地域医療；本学は医療の偏在化を是正するために作られた医育機関であることをわきまえ、地域の特性を理解し、地域のニーズに配慮した診療や予防医学、あるいは災害医療に貢献するという将来ビジョンを描き、地域医療で果たすべき責任を自覚していること。



## Q2. 本学の教育に求めるものについてお伺いします。



### その他

- ・礼儀・接遇・マナー
- ・医師としてのプロフェッショナリズムの滋養
- ・医師である前に「社会人」であり「サラリーマン」であるという教育

## Q3. その他、ご意見等ございましたらご自由に記載してください。

- ・常日頃の臨床はもとより、救急医療、院内行事など常勤医とともに地域医療への貢献度が高い存在です。
- ・卒業した大学ではない施設で、本人たちは頑張っていると思います。
- ・1年目初期研修医のため、評価することについて難しいところがございます。
- ・貴大学は良い教育をされていると思います。
- ・アンケートの内容として、研修医2年目となってからの方が良いのではないかと感じました。
- ・今回の研修医は優秀であった。
- ・私の知り得る限りでの意見ですが、謙虚で協調性もあり、一生懸命医療に取り組む姿勢は素晴らしいと感じています。
- ・回答が遅くなり申し訳ございません。今後ともよろしく願いいたします。
- ・医師という職業は特別視されてしまうものだが、雇われている以上サラリーマンであり、社会の枠組みの中で生きていくべき職業であるということを強く意識づけしてほしい。そのためには、「医学」一辺倒ではなく、一般教養の部分を文科省・厚生省から指示され、大学基準協会からの認証評価でOKをもらえる「やればいい」という範囲で済まさないようお願いしたい。営業をやらせても出来るような医師もいるが、多くの医師は世間知らずでとにかく高飛車になりがちである。多くの成功している経営者というのは、総じて謙虚な方が多い。「社会で生きていくため」には医師という職業がなぜあるのか、人間が人間の体を治すといういわば倫理観のダブルスタンダードをどのように意識できているのか、医師になるための知識は当たり前なので、医大・医学部に求めるものはそこである。

## 4. 総評

学位授与方針で定めた資質に対して、概ねポジティブな結果となった。特に、医療人としての態度、診療技術、医療安全への配慮および医療従事者との連携という点においては、「ある程度できる」以上が90%以上であった。一方、保健医療に関する知識や地域医療への貢献等に対しては、「どちらともいえない」以下が30%以上となっており、比較的低い評価となった。

本学学生に求めるものとしては、80%近い医療機関等が「コミュニケーション能力」を求めており、「問題解決力」「協調性」「倫理観」「汎用的な基礎的知識・技能」については50%以上の医療機関等が求めていることが明らかとなった。また、「汎用的な基礎的知識・技能」を求める割合が「専門的知識・技能」を求める割合に対して2倍近いスコアとなった。

Q1の資質に関するアンケート結果も踏まえると、医学部を卒業した学生は医療人としての態度、診療技術、専門的知識といった能力を身に付けていると考えられる一方で、コミュニケーション能力・汎用的な基礎知識といった社会人として求められる能力・態度（ジェネリックスキルと考えられる）については、今後改善していく余地があると思われる。